

# 関東ふれあいの道 神奈川県① 三浦岩礁の道 (会山行)

(報告) FS

◎期日：2024年6月22日(土)

◎メンバー：FS(L)、KM(SL)、SS(SL)、SM、NH、IK、SY、KT

昨日、気象庁は南関東地区の梅雨入りを発表した。一日中の雨が空を洗浄し、今日はうららかな晴れだ。窓から目に入る関東の山々はすっきりとした青紫の稜線を連ねていて、北空から南に向かい幾筋もの薄絹雲が棚引き前線の接近を告げている。明日は又雨なのだろう。岩礁の道は天候に左右されやすい。雨が降れば滑りやすく、満ち潮や強風では汐波を被り、夏になれば照り返しが強く我々年配には辛い歩行を強いられる。満を持して決めた6月半ば過ぎ、例年だと梅雨の中休みのはず、入りが遅れて心配した。今日1日だけの恵みが有難い。

8時45分三浦海岸駅から定期バスにて松輪下車。軽く足首を馴らす運動。9時10分歩行開始。案内板にはコースの途中一部工作物の波破損の迂回路の指示があり、荒天時の厳しさが覗える。丘の上のコース両側は今の時期スイカ畑で、植えて間もない新芽が我先に太陽光を受けんとばかりに広がりだしている。三浦のスイカは7月中旬甘くてサクサクの実に育つ。のんびりと風景を楽しみながら歩く、前方には千葉県の山々、後方には富士山、薄曇りの空は広い、目を遮る木立もない。これから行く剣碓灯台が眼下に見える。少し下ると林になり集落が点在し、船宿の看板が目につく。そこを抜けると間口漁港。



三浦・岩礁の道 出発地 案内版

既に漁に出ているのか人影もなく寂しく物悲し気だ。そうだ最近魚が取れず、どこの漁港も疲弊しきっている。三崎の漁師が言っていたっけ。だがお隣千葉の保田漁港の番屋という地魚レストラン昨年9月、30組待ちで入れずコンビニ弁当で我慢したのを思い出す。漁港の経営も心意気しいか・・・



房総半島を望む

漁港脇をすり抜けるといよいよ岩礁の道、名こそ立派だがほとんど未整備だ。自然の儘が良いのだけれど漂流ゴミや一部草刈りは定期的実施したらと思う。何しろ関東ふれあいの道神奈川県第一番なのだから。人を案内するには少々はずかしい。

10時 橋の崩壊をさけて草原のような迂回路を剣崎灯台。明治4年に建造された。30秒の内に白2と緑1の閃互光、海拔41メートル光達距離17マイル。灯台があるだけに一望千里の見晴らしなのだが高度が海拔40メートルと低いため景色は扁平である。対岸のピラミダルな鋸山すぐ南に相模湾からも目立つ双二峰の富山、館山。海のかなたに伊豆の大島、伊豆半島の天城山、富士は山頂付近に残る細い雪渓をいくつか残し夏山を迎えようとしている。



岩礁の道



剣崎灯台

暫しの休憩を挟んで迂回路へ戻る。まだ歩きは始まったばかりだ。舗装された農道を抜けバス通り県道215号線に出る。柔らかな日差しと高湿度の為か肌はあせばむ。少ない日陰は給水休憩には貴重な場所だ。少し下ると江奈湾に出る。迂回路でなければここに出てくるはずであった。20年前は松輪漁港の名前と思っていたが今は先ほどの間口漁港の管理の下にあるらしい。湾を半周すると今では貴重な干潟がある。以前は鷺や地の鳥などいたが今では閑古鳥も鳴かないさびしさだ。埋め立てされずよくぞ残ったものだ。

11時15分緩い坂を上り毘沙門天入口。丘の上のスイカ畑を通り少し下る。11時25分 白浜毘沙門天、鬱蒼とした森の中に社屋。向拝柱に狛犬、横梁に籠らしき彫り物あり、古には住民がどの様なお祭りなどしたのだろうか。毘沙門天とは三浦七福神の一つ、持陽山慈雲寺毘沙門堂と称し知恵と武勇の守り神との事。仏教でいう四天王うちの多聞天と同じ北方の守護を司っているらしい。南端にあって北を守っているのかしらん。賽銭箱は無い。人里離れた神社などには盗難防止の為設置していないこともある。本日の無事を祈る。序に社のいかにも古い扉を少し開ける、扉が外れそうになる。奥に古い立派な毘沙門様の絵が掛けられている。あつた！外にあるべき賽銭箱が中にしまっている。これを見てしまつては素通りできない。小銭の百円入れに指を入れ出てきた額を納めようと決め摘まみだす、と、百円の中に一枚だけ混ざっていた500円玉。一瞬戸惑うも出しなおすわけにもいかず、そのまま賽銭箱に入れるとコトコトと大きな音を響かせて落ちていった。

藪道を下るとぱっと開けた海岸に出る。二つ目の岩礁の道。数台の車が駐車していて、知る人ぞ知る隠れた遊び場になっているようだ。岩畳の間に砂浜が広がるようになる。なるほど白浜の名のごとく白っぽい浜だ。白い砕けた貝殻が異常に多く、砂の色を白く見せている。中にピンク色もあり、もしや桜貝かと思ひしや藤壺であった。生きていたときはコケや付着物で汚れた色をしているが死して殻になると藤紫の縞模様の壺形で、いにしえ人の命名感覚に脱帽する。下見に来た折にはこのあたりでNHKの撮影隊が後片付けをしていた。井上咲楽の漂流姉妹というEテレの番組を撮っていた。



小さな岬を超えると毘沙門洞窟。木藪に覆われ峙つ岸壁。注視していなければ素通りしてしまいそうな奥まった場所にそれはあった。ゴミの山と八重葎の踏み入るのも憚れるほどのその先を、幾らか登ると大きな入り口の横穴洞窟。弥生時代の住居跡、未管理で奥へ入るほどに狭く、地盤は土砂で埋まっているようであった。平素は海が見え住み良さそうに見えるが嵐や津波にはどう対処したのだろう。漁に使う番屋みたいなモノだったのではとってしまう。

12時20分 毘沙門湾。ここで再びバス通り、湾を半周して誰もいない毘沙門漁港を通り抜けると最後の岩礁の道、コース最大の見所だ。12時40分盗人狩りと言われる岩場。昔盗人が追手に追われ、この岩礁帯に逃げ込み、この入り江に突き当たり逃げ場を失い御用になったと伝え書きにあった。何故か盗賊の身になってどこか登るルートを探してしまう。3メートルも登って下を見たら足が震えそう。このあたりは太平洋プレートが押し寄せ水平だった海底が押し上げられ45度を超す傾斜地層になって、さらに、地殻変動、断層横ずれ等、悠久の昔に起きた地球の営みの一部が形になって私たちに語りかけてくれている。途中屹立した岸壁上部の崩壊地を避けて、多少きわどいヘツリなどもあったが皆さんベテラン揃い、果敢に挑戦して歩きぬく。



盗人狩



傾斜地層

広い千畳敷の岩畳を通過、ここまでくれば先に見える観音山という30メートルの岩山の手前を抜けるとヨットのマストが見えてくる。我が母港の宮川フィッシャリーナだ。これで無事終了と安心すると急に足が重くなる。小さな岩を乗り越えようと右足を上げ“よいしょ”と、その刹那右脛に痛みを感じ力が入らず後ろに倒れるところを抱きかかえられて助かった。いきなり足が吊ったのだった。そろそろアルコールの匂いがしてくると皆の足が速くなる。いつものことだ。先が見えているので安心して自分はずすきの小道をゆっくりと歩いた。1時30分 健脚なら3時間との事だが4時間20分を要す。3時間では脇目もふらずにサンカのごとく風のように駆け抜けるだけのような気がする。



海蝕



岩礁の道



ヨットハーバー宮川湾（福寿さんヨット係留地、終着地）

ヨットのcockpitにテーブルをセットし、7人乗り込むと狭いが無事完走を祝して乾杯する。冷たいビールが腹に染み渡る。副代表に完走の報告。電話が済むと何故かキャビンに入りたくなる。訳も分からず眠くなる、ここに頭をのせて・・・思い込む間もなく倒れこむ。しまった！酔いが回った。普段飲まないアルコール、ビール1本、ワイン少々。体が動かない。足が吊る。スプレー掛けられたゴキブリの姿だ。

皆がバス時間に合わせて帰り支度を始める。自分は立てない。申し訳ない。“それでは先に帰ります”と言われて幾分気が楽になる。そうだ水だ、68番だ。手探りで飲んで少し休む。(SL)から電話で起こされる。三浦海岸駅で又飲みなおしているらしい。全く豪傑揃いだ。

大分気分も落ち着き、港を後にする。もうバスは無い。タクシーで三崎口駅まで乗る。幾らですか。配送料500円をいれて・・・ぬぬ！？500円が今日のキーワードか・・・そういえばビール代500円借りたままだ！

それにしても毘沙門様は・・・あの時確かに百円に取り換えようと思いましたよ。でもそのまま入れたじゃありませんか。それをお見通しの上で・・・。メンバーには罪は無い、私め一人だけ罰するにはどうするか。その結果か・・・。罰則：船底のゴキブリの刑に処す。ああ～、触らぬ神に祟りなしたあ・・・昔の人はよくいったもんだ。